

(4) へい死・淘汰要因 (表 11 参照)

特殊鶏交雑のうち、へい死・淘汰率が高かったのは、「①UK×YA」であり、特に脂肪肝出血症候群の発生(5羽中4羽)が目立ち、この他に削そうが発生し、検定終了時の454日齢までのへい死・淘汰率は10.0%となった。

また、「②YA×XS」では、脚弱、卵管炎(卵秘症)が発生したものの、特に目立った症状はなく、へい死・淘汰率は2.5%となった。

最もへい死・淘汰率が低かった「③XS×LA」では、脚弱が発生し、へい死・淘汰率は1.3%となった。

大型鶏交雑の「④YD×YA」は、14日齢からの制限給餌の影響からか、削そうが発生し、検定終了時の286日齢までのへい死・淘汰率は2.5%となった。

(表 11) へい死・淘汰率 (日齢/羽数)

区 分	特殊鶏交雑						大型鶏交雑	
	① UK×YA		② YA×XS		③ XS×LA		④ YD×YA	
脚弱			1.3%	(84/1羽)	1.3%	(84/1羽)		
脂肪肝出血症候群	8.0%	(204/4羽)						
削そう(消耗死)	2.0%	(438/1羽)					2.5%	(79/2羽)
卵管炎(卵秘症)			1.3%	(226/1羽)				
計	10.0%	(5羽)	2.5%	(2羽)	1.3%	(1羽)	2.5%	(2羽)

※ 特殊鶏交雑は、64W(454日齢:R2/6/28)までのデータ、大型鶏交雑は、40W(286日齢:R2/1/12)までのデータとした。

※ へい死・淘汰率は、え付羽数から誤差別などを除いたものを補正え付羽数とし、その羽数に対する率とした。